

Univ), eds. Human Pathobiochemistry. Singapore: Springer Singapore, 2019. p.33-41.

3) Hoshina H, Stapleton M, Ida H. Chapter 36: Guidelines for management and treatment. In: Tomatsu S, Lavery C, Giugliani R, Harmatz P, Scarpa M, Węgrzyn G, Orii T, eds. Mucopolysaccharidoses Update. New York: Nova Science Publishers, 2018. p.713-26.

4) 平野大志. 第11章: 小児CKD CQ3: 低出生体重・早期産・胎児発育不全はCKDの危険因子として扱うべきか? 日本腎臓学会編. エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018. 東京: 東京医学社, 2018. p.61-2.

5) 藤原優子. 第Ⅲ章: 症候別・疾患別《各論》G. 他の遺伝性心血管疾患 3. 先天代謝異常. 日本小児循環器学会編. 小児・成育循環器学. 東京: 診断と治療社, 2018. p.638-40.

V. その他

1) 松浦隆樹, 浜野晋一郎, 代田 惇¹⁾, 久保田淳, 樋渡えりか, 池本 智, 平田佑子, 小一原玲子¹⁾(¹⁾ 埼玉県立小児医療センター). 欠神発作重積状態に対して levetiracetam 静注が有用であった2例. 脳と発達 2018; 50(6): 439-40.

皮膚科学講座

講座担当教授:	朝比奈昭彦	乾癬, アトピー性皮膚炎
教 授:	石地 尚興	皮膚リンパ腫, ヒト乳頭腫ウイルス感染症, 皮膚アレルギー学
教 授:	梅澤 慶紀	乾癬
准 教 授:	太田 有史	神経腺腫症
准 教 授:	延山 嘉真	皮膚悪性腫瘍
准 教 授:	伊藤 寿啓	乾癬, 光線療法
准 教 授:	築場 広一	膠原病, 乾癬
講 師:	伊藤 宗成	皮膚悪性腫瘍, 再生医学
講 師:	石氏 陽三	アトピー性皮膚炎, レーザー治療
講 師:	勝田 倫江	ヒト乳頭腫ウイルス感染症

教育・研究概要

I. 乾癬

乾癬では、ステロイドと活性型ビタミン D₃ 製剤を用いた外用療法は治療の基本となっている。内服療法としてシクロスポリン MEPC, エトレチネートがあり、さらに全身照射型の Narrow-band UVB, 308nm excimer lamp を設置し、積極的に光線療法を行っている。また、生物学的製剤では、抗 TNF α 製剤としてインフリキシマブ, アダリムマブ, 抗 IL-12/23p40 製剤としてウスstekinumab, 抗 IL-23p19 製剤としてグセルクマブ, 抗 IL-17A 製剤としてセクキヌマブ, イキセキズマブ, 抗 IL-17 受容体製剤としてプロダグマブが治療適応となっており、難治性重症乾癬患者の治療の選択肢がさらに増えた。治療法の選択には疾患の重症度に加え、患者の QOL の障害度、治療満足度を考慮することが重要である。そのために QOL 評価尺度である Psoriasis Disability Index の日本語版を応用し、患者 QOL の向上に役立っている。また、メタボリック症候群の精査も行い、高血圧、高脂血症の治療も合わせて行っている。さらに乾癬の重症度と労働生産性に関する疫学調査も行っている。また、乾癬性関節炎に関しては、積極的に Dual Energy CT などの画像診断を行うことにより早期診断を行い、早期治療が可能となった。

当施設では、乾癬患者数が多いことから、新薬の

臨床試験を行う機会も多く、生物学的製剤（複数）や新規外用薬の試験を適宜実施している。

II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の発症にはバリア機能異常の側面、アレルギー・免疫異常の側面、心理社会的側面など複数の要因が関与している。当科ではバリア機能異常に対する対応として保湿剤の使用を勧めている。また、アレルギー的側面については、血液検査を中心にアレルゲンの同定を行っている。心理社会的側面については、アトピー性皮膚炎患者のQOLは種々の程度に障害されていることが明らかになっている。治療はEBMに則った外用・内服療法といった標準的治療を基本に、重症患者にはシクロスポリンMEPC内服療法などを行っている。また、新しい治療法としてヒト型抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体であるデュピルマブが承認され、積極的に治療を行っている。また、デュピルマブ投与症例の、痒みに関わるindexや各種検査データを集計し統計解析を行っている。

III. 皮膚悪性腫瘍

当科では皮膚悪性腫瘍、軟部悪性腫瘍全般を扱っている。内訳は悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、隆起性皮膚線維肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍など多彩にわたっており、国内でも屈指の症例数がある。治療方針は皮膚悪性腫瘍ガイドライン、皮膚悪性腫瘍取り扱い規約に基づき、治療方針を決めている。

色素性病変症例では全例でダーモスコピー検査を実施している。また、悪性黒色腫を中心にRI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検も積極的に行っている。皮膚悪性腫瘍は積極的に手術治療を行っている。進行期症例に対して、免疫療法・分子標的療法・化学療法・放射線療法などを施行している。またがん患者の精神的なケアについて配慮し、がん性疼痛に対しても積極的な治療により、疼痛をほぼ感じることなく日常生活が過ごせるよう緩和ケアを病院の緩和ケアチームと協力して行っている。

IV. 神経線維腫症

神経線維腫症外来は、本邦で最も患者が多い外来（年間約900人）である。全国より患者が紹介されるため診断のみでなく長期のフォローアップに加え、患者のQOL向上を目指して積極的に皮膚腫瘍の切除を外来、入院で行っている。

神経線維腫症1型（NF1）患者216例中185例

（85.6%）に病因と考えられるNF1遺伝子変異が判明した。特にNF1遺伝子を含む染色体17q11領域の大きな欠失を示した症例には、特徴的な臨床症状を持つ2つのグループが含まれていることが示唆された。そのひとつが、dysmorphicな顔貌、学習障害、心血管系奇形、小児期の過成長や皮膚の神経線維腫が極めて多数生じる傾向があり、MPNST（悪性末梢性神経鞘腫瘍）が高頻度に生じるグループ。もうひとつがモザイクのグループである。モザイクでの発症のため生じる臨床症状は比較的軽い傾向がある。すなわち、NF1遺伝子のlarge deletionを示した患者の一部は予後が比較的良好であると言える。NF1 large deletionを示した症例以外で変異のかたちからその臨床を予見することは困難であった。

NF1の女性患者における乳癌罹患率の高さに関して、近年、海外から多くの報告がある。フィンランドの報告では2.82倍のリスク、イギリスの報告では30～39歳で6.5倍、40～49歳で4.4倍のリスクがあるとされる。当科では2018年の1年間に421名のNF1女性患者の受診があり、そのうち4名が同年に乳癌と診断されていた。内訳は30～34歳、35～39歳、50～54歳、60～64歳にそれぞれ1人ずつであった。厚生労働省のがん統計より全国の一般女性の乳癌罹患率が0.12%であり、当科のNF1女性の乳癌罹患率（年齢調整罹患率）が0.98%であることから、NF1女性は8.17倍のリスクがあると算出された。また、若年患者でリスクが高く、海外の報告と同様の傾向がみられた。今後、NF1女性における乳癌のスクリーニング方法について確立が必要と思われる。

V. ヘルペスウイルス感染症

1. 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛（PHN）・ヘルペス外来

単純ヘルペスは、性器ヘルペスおよび難治性口唇ヘルペス、顔面ヘルペス患者などの治療を行っている。ウイルス特異的抗原に対する蛍光抗体法や、イムノクロマト法を用いた簡易キットで、迅速な診断を行っている。再発を繰り返す再発型性器ヘルペス患者にはバラシクロビルを用いた再発抑制療法を中心に行っている。

帯状疱疹は、皮疹が出現初期からPHNを発症した患者を含め総括的に治療を行っている。急性期痛、PHNを伴う患者ではステロイド、三環系抗うつ薬、オピオイド、プレガバリンを含めた抗痙攣薬、トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠、トラマドールなどを積極的に用い徐痛を図っている。

VI. ヒト乳頭腫ウイルス感染症

尋常性疣贅では、一般的な液体窒素凍結療法に加え、難治例では活性型ビタミン D₃ 軟膏密封療法、50%サリチル酸絆創膏貼付療法、グルタルアルデヒド塗布療法、モノクロル酢酸塗布などを組み合わせ、治療効果をあげている。さらに難治なものに対しては SADBE による接触免疫療法、くりぬき法による外科的切除や炭酸ガスレーザーによる蒸散術を施行している。また、尖圭コンジローマに対しては、イミキモドクリーム外用や液体窒素凍結療法、電気メスによる焼灼や炭酸ガスレーザーによる蒸散に加え、トリクロロ酢酸外用療法やポドフィリン外用療法を施行している。ハイリスクヒト乳頭腫ウイルス感染が疑われる症例では PCR 法や in situ hybridization 法を用いたヒト乳頭腫ウイルスの型判定や P16 免疫染色による検討も行っている。

VII. パッチテスト

各種の薬疹、接触皮膚炎、口腔粘膜の扁平苔癬などの原因薬剤、物質のパッチテストを行っており、近年、ジャパニーズスタンダードアレルゲンの 24 種類のうち 22 種類が配置された、より手技が簡便なパッチテストパネルが発売され、以前よりさらに積極的にパッチテストを施行している。

VIII. レーザー治療

Q スイッチルビーレーザー治療では、太田母斑、老人性色素斑の成績が良く、老人性色素斑ではほとんど 1 回の照射で改善した。他方、データ解析を行い、扁平母斑及び神経線維腫症のカフェオレ斑の有効率が低いことなどを明らかにした。パルス色素レーザー治療では、単純性血管腫や莓状血管腫、毛細血管拡張症などに照射し、有効であった。ウルトラパルス炭酸ガスレーザーは脂漏性角化症、汗管腫、眼瞼黄色腫などに対し高い治療効果が得られた。

IX. スキンケア外来

乾癬、白斑、皮膚 T 細胞性リンパ腫、痒疹等に対してナローバンド UVB 照射装置、308nm excimer lamp を併用して治療を行い、高い治療効果を得ている。

また、専門美容技術指導員が個人指導する「スキンケアレッスン」、「アクネケア」により、治療上の様々な問題点を見出し、改善することによって治療の助けになっている。

「点検・評価」

乾癬外来では各治療法の Risk/Benefit Ratio を考慮し、患者の QOL を高める治療計画確立、治療アドヒアランスの向上を目指している。また、全身照射型の Narrow-band UVB, 308nm excimer lamp を積極的に稼働させている。また、東京の患者友の会と共同して乾癬患者を対象にした学習懇談会、市民公開講座を定期的に行う予定である。また、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的に行っている。

神経線維腫症に関しては当科における専門外来の存在が広く知られているためか、これまで以上に多くの患者が紹介受診し、遺伝相談も積極的に行っている。臨床・基礎研究では悪性末梢神経鞘腫瘍についての早期診断に加え、遺伝子異常の検索を続けている。また、患者 QOL 向上を目指して積極的に神経線維腫の手術にも取り組んでいる。

ヘルペス外来では、ヘルペスウイルス感染症の早期診断、型分類も行っている。また、性器ヘルペスの抑制療法、帯状疱疹後神経痛の治療に関しても積極的に取り組んでいる。

ヒト乳頭腫ウイルス感染症は紹介難治例も多く、通常の治療法に加え、特殊療法も重症度に応じて、行っている。尖圭コンジローマの治療も積極的に行っている。

パッチテスト専門外来では食物によるアナフィラキシーの原因追及、接触皮膚炎、薬疹などの原因物質の同定を行っている。

アトピー性皮膚炎の臨床面では EBM に基づく治療のみならず、患者の QOL の障害の程度を考慮した日常診療を行っている。中でもスキンケアの重要性を患者に自覚してもらうため、スキンケア外来でのスキンケアレッスンの普及に努めている。心身医学的配慮が必要な患者にはメンタルケア外来を設けて対応している。本学独自の患者の会を中心に息の長い活動も行っている。

皮膚悪性腫瘍は、手術症例も多く、悪性黒色腫、乳房外 Paget 病について国内でも屈指の経験例を有する。センチネルリンパ節生検も積極的に行っている。悪性黒色腫のフェロン維持療法の研究組織は当科が中心となって行っている。

レーザー治療外来では、数種類のレーザー機器を用いて多数の症例を治療している。蓄積されたデータをもとに適切な時期に適切な機器で治療を行えるようになっている。

膠原病は長期経過の中で様々な合併症を生じる疾患群であるため、今後も他科との連携を保ちつつ、継続して治療を行うことが重要であると考えられる。

全体として、様々な難治性皮膚疾患に関する広範な臨床研究に加え、臨床に還元できる基礎的研究が進行していることが特徴である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Itoh Y, Asahina A, Kanbe M, Ito K, Nakagawa H. Case of pityriasis rubra pilaris with focal acantholytic dyskeratosis. *J Dermatol* 2018; 45(9) : e258-9.
- 2) Umezawa Y, Yanaba K, Asahina A, Nakagawa H, Fukuda T, Fukuda K. Usefulness of dual-energy computed tomography for the evaluation of psoriatic arthritis accompanied by knee osteoarthritis. *J Dermatol* 2019; 46(1) : e30-2.
- 3) Momose M, Asahina A, Fukuda T, Sakuma T, Umezawa Y, Nakagawa H. Evaluation of epicardial adipose tissue volume and coronary artery calcification in Japanese patients with psoriasis vulgaris. *J Dermatol* 2018; 45(11) : 1349-52.
- 4) Kurita M, Kikuchi S, Umezawa Y, Asahina A, Nakagawa H, Yanaba K. Serum KL-6 levels in Japanese patients with psoriasis treated with secukinumab. *J Dermatol* 2019; 46(4) : e115-6. Epub 2018 Sep 11.
- 5) Yoshihara Y, Ishiiji Y, Yoshizaki A, Kurita M, Hayashi M, Ishiji T, Nakagawa H, Asahina A, Yanaba K. IL-10-producing regulatory B cells are decreased in patients with atopic dermatitis. *J Invest Dermatol* 2019; 139(2) : 475-8.
- 6) Kurita M, Yoshihara Y, Ishiiji Y, Chihara M, Ishiji T, Asahina A, Yanaba K. Expression of T-cell immunoglobulin and immunoreceptor tyrosine-based inhibitory motif domain on CD4⁺ T cells in patients with atopic dermatitis. *J Dermatol* 2019; 46(1) : 37-42.
- 7) Chihara M, Kurita M, Yoshihara Y, Asahina A, Yanaba K. Clinical significance of serum galectin-9 and soluble CD155 levels in patients with systemic sclerosis. *J Immunol Res* 2018; 2018 : 9473243.
- 8) Yamaguchi K, Hayashi T, Takahashi G, Momose M, Asahina A, Nakano T. Successful certolizumab pegol treatment of chronic anterior uveitis associated with psoriasis vulgaris. *Case Rep Ophthalmol* 2018; 9(3) : 499-503.
- 9) Aizawa N, Ishiiji Y, Tominaga M, Sakata S, Takahashi N, Yanaba K, Umezawa Y, Asahina A, Kimura U, Suga Y, Takamori K, Nakagawa H. Relationship between the degrees of itch and serum lipocalin-2 levels in patients with psoriasis. *J Immunol Res* 2019; 2019 : 8171373.
- 10) Matsuo H, Yanaba K, Umezawa Y, Nakagawa H, Muro Y. Anti-SAE antibody-positive dermatomyositis in a Japanese patient : a case report and review of the literature. *J Clin Rheumatol* 2018 Aug 2. [Epub ahead of print]
- 11) Ohtsuki M, Morimoto H, Nakagawa H. Tacrolimus ointment for the treatment of adult and pediatric atopic dermatitis : review on safety and benefits. *J Dermatol* 2018; 45(8) : 936-42.
- 12) Yaginuma A, Itoh M, Akasaka E, Nakano H, Sawamura D, Nakagawa H, Asahina A. Novel mutation c.263A > G in the ACVRL1 gene in a Japanese patient with hereditary hemorrhagic telangiectasia 2. *J Dermatol* 2019; 46(1) : e22-4.
- 13) Ohtsuki M, Kubo H, Morishima H, Goto R, Zheng R, Nakagawa H. Guselkumab, an anti-interleukin-23 monoclonal antibody, for the treatment of moderate to severe plaque-type psoriasis in Japanese patients : efficacy and safety results from a phase 3, randomized, double-blind, placebo-controlled study. *J Dermatol* 2018; 45(9) : 1053-62.
- 14) Yaginuma A, Nobeyama Y, Miyake-Nakano S, Ishiji T, Kamide R, Nakagawa H. Case of combined nevus showing a speckled distribution pattern. *J Dermatol* 2018; 45(8) : e232-3.
- 15) Nakagawa H, Nemoto O, Yamada H, Nagata T, Ni-nomiya N. Phase I studies to assess the safety, tolerability and pharmacokinetics of JTE-052 (a novel Janus kinase inhibitor) ointment in Japanese healthy volunteers and patients with atopic dermatitis. *J Dermatol* 2018; 45(6) : 701-9.
- 16) Nakagawa H, Tanaka Y, Sano S, Kameda H, Taniguchi A, Kashiwagi T, Kawaberi T, Kimura J, Morita A. Real-world postmarketing study of the impact of adalimumab treatment on work productivity and activity impairment in patients with psoriatic arthritis. *Adv Ther* 2019; 36(3) : 691-707.
- 17) Umezawa Y, Torisu-Itakura H, Morisaki Y, El-Maraghy H, Nakajo K, Akashi N, Saeki H ; Japanese Ixekizumab Study Group. Long-term efficacy and safety results from an open-label phase III study (UNCOVER-J) in Japanese plaque psoriasis patients : impact of treatment withdrawal and retreatment of ixekizumab. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2019; 33(3) : 568-76.
- 18) 鈴木 皓, 延山嘉真, 石地尚興, 中川秀己. 神経線

維腫症1型患者の正中神経に生じた nodular plexiform neurofibroma の1例. 皮膚臨床 2018; 60(13): 2053-6.

- 19) 鈴木 皓, 木曾真弘, 菊池荘太, 吉田寿斗志, 福地修. 【腋窩の皮膚病】 <臨床例>乳房外 Paget 病 右腋窩の紫紅色斑を契機に外陰部にも病変を認めた. 皮膚診療 2018; 40(5): 497-500.

II. 総説

- 1) 延山嘉眞. 耳鼻咽喉科領域における悪性黒色腫の診断と治療. 耳鼻展望 2019; 62(1): 31-9.
- 2) 朝比奈昭彦. 【Immunology～領域を超えた挑戦～】Ps領域 乾癬性関節炎の最新知見. クリニシアン 2018; 65(10): 904-11.
- 3) 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦. 【乾癬治療の達人を目指す】治療に難渋する病態への対応 膿疱性乾癬の診断と治療. 皮膚臨床 2018; 60(10): 1533-7.
- 4) 唐川 大, 朝比奈昭彦. 【乾癬治療の達人を目指す】乾癬と疫学. 皮膚臨床 2018; 60(10): 1467-72.
- 5) 相澤紀江, 中川秀己. 【痛み・かゆみ】かゆみ かゆみと治療 蕁麻疹のかゆみ. 小児内科 2018; 50(7): 1127-30.
- 6) 梅澤慶紀, 中川秀己. 【最近のトピックス 2018】皮膚疾患治療のポイント コムクロシャンプー0.05%の使い方. 臨皮 2018; 72(5): 100-4.
- 7) 石地尚興. 【実践的感染症診療】主な感染症に対する治療の実際 泌尿器・生殖器・性感染症 梅毒. Med Pract 2018; 36(臨増): 220-6.
- 8) 石地尚興. 【性感染症 UPDATE】梅毒症例の急増と問題点. 医のあゆみ 2018; 267(3): 193-6.
- 9) 本田まりこ. 帯状疱疹ワクチン. ペインクリニック 2018; 39(7): 919-24.
- 10) 石氏陽三. 【痒み-最近の話題-】痒みのメカニズム 中枢はどこか. 神経内科 2018; 89(1): 8-13.

III. 学会発表

- 1) 千原真未, 栗田美紀, 築場広一, 朝比奈昭彦, 吉田健. 骨髄炎を合併した限局性強皮症の1例. 第48回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会. 奈良, 11月.
- 2) Chihara M, Ito M, Nakagawa H. A novel mutation in ATP-sensitive potassium (KATP) channels contributes to Cantu syndrome. 27th European Academy of Dermatology and Venereology (EADV 2018). Paris, Sept.
- 3) 福田将大, 尾形花梨, 嶋田万里子, 関山絃子, 盛島美弥, 中島玲華, 菊池荘太, 延山嘉眞, 石地尚興, 朝比奈昭彦. 創内持続陰圧洗浄療法で創傷治癒が得られた感染を伴う皮膚潰瘍の2例. 第879回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6月.

- 4) 福田将大, 尾形花梨, 嶋田万里子, 関山絃子, 盛島美弥, 中島玲華, 菊池荘太, 延山嘉眞, 石地尚興, 朝比奈昭彦. Antigenic competition 現象様所見がみられた水疱性類天疱瘡. 第70回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 松江, 11月.
- 5) 嶋田万里子, 延山嘉眞, 中島玲華, 百瀬まみ, 築場広一, 伊藤宗成, 石地尚興, 朝比奈昭彦, 込山悦子. 皮膚の神経線維腫が先行した悪性末梢神経鞘腫瘍の1例. 日本皮膚科学会第881回東京地方会. 東京, 9月.
- 6) 嶋田万里子, 伊藤宗成, 延山嘉眞, 菅野康吉, 朝比奈昭彦. 腎移植後10年目に顕在化し Muir-Torre 症候群 (MTS) の1例. 日本皮膚科学会第882回東京地方会. 東京, 1月.
- 7) 鈴木 皓, 延山嘉眞, 石地尚興, 朝比奈昭彦. 神経線維腫症1型患者の正中神経に生じた nodular plexiform neurofibroma の1例. 第881回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 9月.
- 8) 鈴木 皓, 延山嘉眞, 朝比奈昭彦, 仲野 彩. 未分化型急性骨髄性白血病 (AML M0) に生じた皮膚白血病の1例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 1月.
- 9) 相澤紀江, 菊池荘太, 石氏陽三, 梅澤慶紀, 中川秀己, 朝比奈昭彦. 高IgE血症を伴う乾癬患者における生物学的製剤の治療効果の検討. 第33回日本乾癬学会学術大会. 松山, 9月.
- 10) 藤井鷹矢, 築場広一, 千原真未, 朝比奈昭彦. ヒドロキシクロロキンが著効した小児円板状エリテマトーデスの1例. 第879回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6月.
- 11) 藤井鷹矢, 百瀬まみ, 朝比奈昭彦. フルオロウラシル投与後に顕在化し, 悪性黒色腫と鑑別を要した複合母斑の1例. 第90回日本皮膚科学会山梨地方会. 甲府, 9月.
- 12) 藤井鷹矢, 脇 裕磨, 青木礼奈, 築場広一, 伊藤宗成, 延山嘉眞, 朝比奈昭彦, 石田勝大, 松浦慎太郎. 明細胞肉腫 (clear cell sarcoma) の1例. 第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 大阪, 10月.
- 13) 藤井鷹矢, 朝比奈昭彦. 男児に生じた Pigmented Fungiform Papillae of the Tongue の1例. 第883回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 2月.
- 14) 八木沼彩, 伊藤宗成, 中川秀己, 朝比奈昭彦, 赤坂英二郎, 中野 創, 澤村大輔. ACVRL1 遺伝子に新規病的変異を認めた遺伝性出血性毛細血管拡張症の1例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 1月.
- 15) 小笹美蘭, 平山愛理彩, 福田浩孝, 鈴木 皓, 中山未奈子, 青木礼奈, 太田有史, 松尾陽香, 朝比奈昭彦. 著しい痂皮を伴った落葉状天疱瘡の1例. 第882回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 1月.
- 16) 間中結香, 石地尚興, 朝比奈昭彦. 手指爪囲の

Bowen 病と陰茎の Bowen 様丘疹症から粘膜ハイリスク HPV が検出された 1 例. 日本性感染症学会第 31 回学術大会. 東京, 11 月.

- 17) 阿部佳奈美, 石地尚興, 朝比奈昭彦. 人間ドックで発見された内耳梅毒の一例. 日本性感染症学会第 31 回学術大会. 東京, 11 月.
- 18) 安田健一, 村山 梓, 石地尚興, 朝比奈昭彦, 小笠原洋治. 播種性淋菌感染症の 1 例. 日本性感染症学会第 31 回学術大会. 東京, 11 月.
- 19) 盛島美弥, 延山嘉真, 伊藤宗成, 勝田倫江, 朝比奈昭彦. 色素斑がみられた乳房 Paget 病の 1 例. 第 879 回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6 月.
- 20) 山口貴子, 福地 修, 延山嘉真, 朝比奈昭彦, 伊東慶悟. 背部基底細胞癌にケロイド様結節が合併した 1 例. 第 879 回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6 月.

放射線医学講座

講座担当教授:	尾尻 博也	放射線診断学
教授:	関根 広	放射線治療学
教授:	貞岡 俊一	インターベンシヨナルラジオロジー
教授:	青木 学	放射線治療学
教授:	内山 眞幸	核医学
准教授:	中田 典生	超音波診断学
准教授:	砂川 好光	放射線治療学
准教授:	有泉 光子	放射線治療学
准教授:	池田 耕士	放射線診断学
講師:	小林 雅夫	放射線診断学
講師:	佐久間 亨	放射線診断学
講師:	川上 剛	放射線診断学
講師:	松島 理士	放射線診断学
講師:	太田 智行	超音波診断学

教育・研究概要

I. 画像診断部門

1. Isocitrate dehydrogenase (IDH) 遺伝子変異の有無による膠芽腫の画像所見の相違に関する検討

2016 年の WHO の中枢神経系腫瘍の分類の改訂に伴い分子遺伝学的なパラメータが診断に使用されるようになった。特に神経膠腫の分類においては IDH 遺伝子の変異の有無が重要とされており, IDH 遺伝子変異の有無による膠芽腫の画像所見の相違について検討した。

2. HPV (human papilloma virus) 陽性中咽頭癌の嚢胞状頸部転移と第 2 鰓裂嚢胞および結核性リンパ節炎との CT 所見の差異に関する検討

HPV 陽性中咽頭癌の頸部リンパ節転移はしばしば嚢胞状を呈し, 臨床上, 他の頸部嚢胞性病変との鑑別が困難なことも多く, それらの画像所見の差異の検討は放射線学的鑑別において重要である。HPV 陽性中咽頭癌の嚢胞状頸部転移と画像所見で類似する第 2 鰓裂嚢胞および結核性リンパ節炎との CT 所見の差異を比較検討した。

3. 肺嚢胞の吸気, 呼気における容積変化の検討

一般に気腫性嚢胞では air-trapping 効果により肺容積, 肺嚢胞の変化が乏しいことが知られているが, 経験的に肺容積変化の目立つ嚢胞が存在する。これらの嚢胞の画像的, 臨床的特徴を吸気, 呼気 CT を用いて検討する。